

3 各種委員会報告

図書委員会

図書委員会は、「図書委員会規程」に基づき図書館運営の大綱を決定する委員会である。2003年度は3回、委員会を開催した。

5月27日に開催した第1回委員会では、図書館各種委員会委員の選任、法科大学院新設にともなうローライブラリの設置、2002年度図書館図書費決算等を承認した。

11月20日に開催した第2回委員会では、中央図書館蔵書の生田保存書庫への移転について承認した。また大きな課題であった研究用図書費配分方式について、新学部・新研究科の設置にともない、教員の人数構成比に基づき配分比率を決めることを検討した。

3月8日に開催した第3回委員会では、第2回委員会での検討に基づき、2004年度図書館図書費の配分、特に研究用図書費を教員の人数構成比によって基本的に比例配分する案を承認した。

収書委員会

収書委員会は、図書館の収書方針の審議、収書計画の策定、蔵書評価など、収書に関する政策決定を行う委員会である。2003年度は2回開催した。

11月11日開催の第1回委員会では、高騰する外国雑誌の予算措置について討議した。また、情報コミュニケーション学部、法科大学院、ガバナンス研究科、グローバルビジネス研究科等新設学部、研究科に対応した収書方針を確認した。外部データベースの契約については、山手線沿線私立大学図書館コンソーシアムによるCSAの契約を承認し、さらに、新規データベースとして、SciFinder Scholar、Mergent Onlineの契約を承認したが、SciFinder Scholarに関しては、予算措置の整う次年度からの契約とした。

3月3日開催の第2回委員会では、2004年度図書予算の配分方式変更が大きな検討課題となった。これは新学部・研究科設置に伴い、特に研究用図書費の配分方法を従来の慣例的な配分比率から教員の構成比率に変更しようとするものである。配分比率の算定方法をこのように変更した場合研究用図書費が大幅に減少する学部が生じるため多くの議論があったが、今後の適性な図書予算配分を実現するため、研究用図書費の学部教員構成比率による配分方式を承認した。また2003年度に比較して予算増を得ることができたので、外国雑誌値上りへの対応として逐次刊行物費を増額し、学習用図書費を充実することを承認した。さらに、私立大学図書館コンソーシアムによるWiley InterScienceの電子ジャーナル契約に関する報告があった。

新聞雑誌委員会

新聞・雑誌委員会は新聞・雑誌の収書について検討する委員会であり、2003年度は2回開催した。

7月28日開催の第1回委員会では、逐次刊行物の値上りの仕組みについての説明をし、2000万円の予算補正を行ったことと、2004年度の外国雑誌が8～10%の値上げが見込まれる現状の説明と後年度に対する負担の確認した。また、山手線沿線私立大学図書館コン

ソーシム逐次刊行物の分担収集・保存協定が結ばれたことの報告があった。次に年度予算を確認した上で、2004年新規購入外国雑誌の申込みに関する審議を行い、購入を決定した。また、新聞雑誌申込み関係書類一式の改訂及び受付方法の確認を行った。

12月10日開催の第2回委員会では、外国雑誌の高騰が続くため予算が逼迫し、さらには新規購入が困難である現状に対し、継続外国雑誌の見直しアンケートを実施することは必須であること。そして、見直し策としてのアンケートの実施方法等を検討した。結果として、見直しアンケートによる経費削減は図書館全体の問題であるが、外国雑誌の占める地区別割合が生田地区が高いため、手始めとして、生田地区から実施することを決定した。

特別資料選定委員会

特別資料選定委員会は、複数の学問分野にまたがる基本的な学術資料、学内の学際的な研究グループが必要とする学術資料、学内のユニークな研究プロジェクトが必要とする学術資料、貴重な大型コレクションの4つの収集基本方針をふまえて、大型(高額)で特色ある資料を選定する委員会で、図書館長のもとに図書委員、図書館員あわせて7名で構成される。

2003年度は6月10日に第一次選定を、12月9日に第二次選定を行った。第一次選定では9件の応募から「ジンプリシズム」、「アダム・スミス『道徳感情論』初版」、「1900年以前の英独会計・簿記研究」「朝鮮通信使記録」「キャプテン・デュペイ『メキシコの古代遺物』」の5件を選定した。第二次選定では第一次選定で不採用となった分と追加応募あわせて14件から、「抱谷文庫旧蔵江戸文芸資料 草双紙類」、「アウグスティヌス『神の国』1473年刊」、「マルクス『資本論』初版」の3件を選定した。

アフリカ文庫選定委員会

アフリカ文庫は1979年の開設以来(当初はアラブ・アフリカ文庫)、本学の特色あるコレクションの一つとして、毎年、選定委員会により重点項目が決定され、選書・収集が行われている。選定委員会は図書館長のもとに5名の教員および図書館員により構成される。2003年度は5月20日に第1回、10月30日に第2回の委員会を開催し、選定ガイドラインに基づき選定を行った。

その他、第1回では2004年度に冊子体目録(追補版)の刊行を決定した。第2回では、今後ともアフリカ文庫を拡充していくために、引き続き今年度以上の予算を要求することにした。あわせて、次年度の委員を増員することについて協議した。

また、アフリカ文庫のPRを目的として11月25日にガーナ共和国野口英世記念研究所研究員・医師のアイリーン・アイ氏を招き、アフリカの現状をテーマとする講演会を開催した。講演会には、在日エリトリア大使のアフォワキ氏をはじめ約80名の出席があった。今後ともこのようなイベントの企画を行い、学内外へのPRに努めたい。

学習用図書選書委員会

学習用図書選書委員会は、駿河台、和泉、生田の三地区の学習用図書及び寄贈図書の選書について協議・調整する機関として設置されたもので、必要に応じて委員会を開催する。各館における学習用図書の選書体制は次のとおりである。

中央図書館は、駿河台地区の各課より選出された委員からなる中央図書館選書委員会（委員長は総合サービス課長）を、隔週の金曜日に定例開催し、現物見計いや寄贈図書の選定のほか、全国書誌と東販の新刊情報、図書新聞等によるカタログ選書、シラバス図書の扱い等、選書に係わる諸課題を検討している。

和泉図書館では担当者が主にカタログ選書を行っているほか、課員全員による現物見計いも行っている。生田図書館では現物見計いと指示見計いを担当者を置いて行っている。また、99年度より教員による学習用図書選書委員会が発足した。3地区とも図書委員を中心に選書が行われ、「学習用推薦図書」の申込件数は確実に増加している。

学習用基礎資料選定委員会

学習用基礎資料選定委員会は、図書館として備えて置くべき基本的な資料のうち、特に大型（高額）の資料や、図書館の個性形成に資する特別な資料を計画的に収集するために、設置された委員会で、図書館員5名より構成される。個性形成に資する資料として以下が予算化されている。

1. 明大文庫（中央）
2. 近代文学文庫（和泉）
3. 地方史（中央）
4. 蘆田古地図（中央）
5. 江戸文藝文庫（中央）

2003年度は7月17日に第1回、2004年2月24日に第2回の委員会を開催した。各回における購入決定資料は以下の通りである。

第1回選定：「考古資料大観」、「English Short Title Catalogue」、「ディブディン『スペンサー文庫目録』」、「Encyclopedia of Food Sciences and Nutrition」以上4件。

第2回選定：「ボダン『魔女論』1580年初版」、「フィチーノ訳プラトン『著作集』1518年パリ版」、「天狗の内裏（絵巻）」、「ソグラン『パリの書店・印刷者規則1744年初版』」、「マヌエル2世『1489年から1600年にかけてポルトガルで作成された貴重書籍の解題目録』」、「幕末明治在日外国人・機関名鑑」、「国宝伴大納言絵」、「Le Corbusier archives」以上8件。

図書館紀要編集委員会

「図書の譜ー明治大学図書館紀要ー」は、1996年より年1号の頻度で刊行を継続しており、図書館職員の研究成果公表の場となってきた。2003年度は第8号を2004年3月25日

に刊行した。

第8号は250ページ、内容は以下のとおりである。

1. 模倣の合理性と図書館における知的活動の支援 / 山下洋史 (商学部教授)
2. 「トルコ文庫」へようこそ / 永田雄三 (文学部教授)
3. ハーヴァード大学付属ピーボディ人類学博物館研究報告 / 佐々木憲一 (文学部助教授)
4. 明治大学新聞に現れた図書館記事索引 / 坂口雅樹 (生田図書館課)
5. ジェンドリンの初期体験過程理論に関する文献研究(上): 心理療法研究におけるディルタイ哲学からの影響 / 田中秀男 (図書館委託職員)
6. 明治大学図書館・アフリカ文庫講演会: ガーナの女性医師が語る AIDS, ODA, etc. / Irene Ayi (ガーナ共和国野口英世記念研究所研究員)
7. 本棚の隅の「愛蔵書」- The complete works of Raymond Carver 中林雅士 (図書館庶務課)
8. 米国図書館訪問を終えて: 私大図協主催・海外集合研修レポート / 伊藤朋子 (図書館整理課)
9. 韓国における司書教育について / 柴尾晋 (和泉図書館課)
10. 座談会「読書と図書館の活用」を語る / 佐々木憲一 (文学部助教授)・井田正道 (政治経済学部助教授)・海野素央 (政治経済学部助教授)・浮塚利夫 (総合サービス課長)・梅田順一 (総合サービス課)・木谷光宏 (司会) (政治経済学部教授)
11. 統計情報から見る図書館活動 / 中林雅士 (図書館庶務課)
12. OPACの機能面から見た書誌レコードの作成方法について / (株)明大サポート整理業務担当チーム
13. 小特集 追悼 後藤総一郎元館長
 - 書誌からみた後藤総一郎元館長 / 飯澤文夫 (教育振興部事業課長)
 - 「図書の譜」創刊のころ / 橋本千良 (情報システム事務部長)
 - 図書館講演会「著者と語る」と後藤先生 / 浮塚利夫 (総合サービス課長)
 - 中央図書館の書庫開放と後藤総一郎館長 / 秦野真次 (生田図書館課長)
 - スタッフ研修と後藤総一郎元館長 / 高橋美子 (総合サービス課)
 - 常民大学と図書館員 / 平田さくら (総合サービス課)
 - 本学図書館の活性化と展望について (講演記録) / 後藤総一郎 (飯澤文夫編)
14. 「江戸文藝文庫」蔵書解題(三) / 渡辺好久児 (郁文館高校講師)・内村和至 (文学部助教授)

図書館広報委員会

広報委員会は、図書館広報誌「らいぶ (図書館報)」編集委員会、利用案内編集委員会、ホームページ編集委員会の3委員会に分かれて、それぞれの広報活動を企画検討してきた。

「らいぶ (図書館報)」はNo. 4 から6 まで3号を、貴重資料紹介、図書館活用法ガイドを中心に発行した。2002 年度からそれまで発行してきた「図書館報」と学生利用者用ガイド「らいぶ」が一本化されたものが現在の「らいぶ (図書館報)」である。しかし従来型の、ある程度学術的な色彩を持つ「図書館報」の必要性があらためて指摘されており、今後の検討課題となっている。

利用案内委員会では、昨年同様「案内」本体、「文献の探し方」「OPAC ユーザーズガイド」「専任教員利用案内」「兼任教員利用案内」の5誌を企画・立案し、2004 年度始めに発行した。特に「案内」本体については、新たに休日開館のサービス状況とローライブラリ利用案内を追加するとともに、ホームページやOPAC案内を最新のものに更新した。

ホームページ編集委員会では、新図書館ホームページのトップページのデザイン・構成を検討し、プロトタイプを作成した。またホームページを構成するコンテンツのサイトマップを作成した。2003 年度はトップページの更新のみ行なう予定でいたが、トップページとコンテンツのデザインを統一させるため、スタイルシートを使用したコンテンツ作成を行なうことを決定し、トップページとコンテンツ全てを一新させた新図書館ホームページを2004 年度10 月に公開することとした。新ホームページの、コンテンツのメンテナンス運用については、新規コンテンツ作成・修正・削除を日常的に行なえるようにするため、責任編集担当者を決定し、また情報が共有できるようにサーバを構築し、作成したコンテンツ、サイトマップや会議事録を格納できるなど、効率的な運用を確立した。

図書館自己点検・評価委員会

図書館自己点検・評価委員会は、教学自己点検・評価委員会の依頼に基づき、図書館に関する自己点検・評価を実施する委員会である。

前年度までは、教学の自己点検・評価のために組立てられた評価項目を図書館活動に当てはめて点検評価を行ってきた。本年度より項目立が変更され図書館独自の評価項目が設けられたため、これに沿った検討を行い従来より簡略化した報告書を作成した。

本委員会で行う自己点検・評価を図書館活動に積極的に反映する方策の確立が今後の検討課題であろう。

サービス推進委員会

サービス推進委員会は、図書館サービスに関わる図書館活動について検討するための委員会である。

2003 年度は11 月18 日に委員会を開催し、今年度から大学に導入されたプリンタ課金システムの目的と稼働状況、新たに稼働した新SDI サービスおよび雑誌アラートシステム、2004 年度に予定されている和泉図書館の開館時間延長、休日開館日の拡大等について報告があった。また兼任教員について、申請形式での外部有料データベース利用が可能になったことが報告された。さらに検討事項として、中央図書館蔵書の生田保存書庫への移

動案が承認された。しかし教員への図書貸出期間延長の要望に関しては、今年度「図書館利用規程」を改訂し、期間延長を行ったこと、他大学と比較しても決して短くはないことなどから、当面現在の貸出期間とすることとなった。



中央図書館 1階 レファレンスエリア